

# 令和7年度 小樽市立幸小学校 学力向上改善プラン

## 1 児童の実態

全国学力・学習状況調査では、平均正答率が国語科、算数科ともに全国平均を下回った。国語科では「言葉の使い方や漢字」、算数科では記述式の問題の正答率が低く、表現力において課題が見られた。

また、標準学力調査では、3年生・5年生の国語科、算数科の両教科で平均を下回った。基礎問題・活用問題双方において課題が見られた。

日常の授業の中で、自分の考えを自分の言葉で表現する場面を設定したり、授業の中で取り扱ったことを他の場面で活用を図ったりするような場面を設定するなどして課題を解決していきたい。

生活面では、依然としてゲームやインターネット、スマホ等の使用時間に課題があり、学習時間、就寝時間が短くなる傾向の児童が見られる。また、「毎日目標時間以上の家庭学習をしている」児童はごく少数であり、定着は十分ではない。望ましい生活習慣の確立に向けて、家庭に啓発を続けていく必要がある。

## 2 学年ごとの定着目標（数値目標）

### <国語科>

学年	定着目標
1年	・チャレンジテストの学校平均点を全道平均点と同等とする。
2年	・チャレンジテストの学校平均点を全道平均点と同等とする。
3年	・チャレンジテストの学校平均点を全道平均点と同等とする。
4年	・チャレンジテストの学校平均点を全道平均点と同等とする。
5年	・チャレンジテストの学校平均点を全道平均点と同等とする。
6年	・チャレンジテストの学校平均点を全道平均点と同等とする。

### <算数科>

学年	定着目標
1年	・チャレンジテストの学校平均点を全道平均点と同等とする。
2年	・チャレンジテストの学校平均点を全道平均点と同等とする。
3年	・チャレンジテストの学校平均点を全道平均点と同等とする。
4年	・チャレンジテストの学校平均点を全道平均点と同等とする。
5年	・チャレンジテストの学校平均点を全道平均点と同等とする。
6年	・チャレンジテストの学校平均点を全道平均点と同等とする。

### <学習・生活習慣（家庭学習等）>

学年	定着目標
1～6年 (全学年)	・70%（半数）以上の児童が毎日目標時間以上の家庭学習に取り組む。 ※目標時間＝学年×10分＋10分 ・60%以上の児童が、毎日読書をする。（学校図書館での読書時間も含める。）

## 3 目標を達成するための具体的な方策

### (1) 基礎学力の確実な定着を図る取組

- ①繰り返しの漢字・計算練習による確実な定着
- ②朝学習・放課後学習を活用した基礎学力の定着と学び直し
- ③学校全体で取り組む学習規律の徹底
- ④スマイルドリル等 ICT を活用した授業改善

### (2) 確かな学力をはぐくむ授業改善の取組

- ①思いや考えを伝え合う交流場面の充実
- ②主体性を促す適切な課題設定・指導計画
- ③習熟度別少人数指導の効果的な活用
- ④学びを定着させるための振り返りの時間の確保
- ⑤『小樽授業づくり5つのSTEP』に沿った授業づくり

### (3) 家庭と連携した学習習慣・生活習慣をはぐくむ取組

- ①全校で統一した家庭学習(宿題)の提示
- ②生活リズムチェックシートを活用した生活習慣の振り返り
- ③児童の生活習慣の確立や「おたるスマート7」の徹底を学校便りや保護者会での啓発
- ④市立図書館や学校司書と連携した読書習慣確立への啓発

## 4 実施計画

年月日	計画内容
R7年	
4月	・全国学力・学習状況調査の調査過去問題の実施 ・チャレンジテスト（前年度問題）の実施 ・確認テストの実施 ○R7全国学力・学習状況調査の実施 ○全国学力・学習状況調査 自己採点
5月	○標準学力調査実施（第3学年・第5学年） ・R7全国学力・学習状況調査の自校採点後の分析
6月	・生活リズムチェックシートの活用
7月	○標準学力調査結果分析 ・チャレンジテスト（1学期末問題）の実施 ・実態把握・検証 ・児童アンケート、保護者アンケートの実施 ・教職員自己評価 ・夏休み学習会
8月	○R7全国学力・学習状況調査結果分析
9月	○保護者への調査結果の説明 ○学力向上改善プランの評価・改善
10月	
11月	
12月	・チャレンジテスト（2学期末問題）の実施 ・実態把握・検証 ・児童アンケート、保護者アンケートの実施 ・教職員自己評価 ・冬休み学習会
R8年	
1月	・生活リズムチェックシートの活用
2月	・チャレンジテスト・学年末問題・確認テストの実施 ・実態把握・検証
3月	・全国学力・学習状況調査の過去問題の実施 ○新学力向上改善プランの作成

## 5 評価方法

### (1) 基礎学力の確実な定着を図る取組

- ①スマイルドリル・確認テストでの正答率の把握
- ②朝学習・放課後学習の内容・取組状況の把握と見直し
- ③学習規律の定期的な確認と見直し
- ④「新しいわたりの学び取組振り返りシート」の活用

### (2) 確かな学力を育む授業改善の取組

- ①②④校内研修を軸とした研究授業および交流授業
- ③⑤重点や取組状況の把握と見直し

### (3) 家庭と連携した学習習慣・生活習慣を育む取組

- ①④実施状況の確認
- ②③生活リズムチェックシートや学校評価アンケートの活用